

「見通しを立てる学習過程」における

学習問題づくりの指導

—— 題材 心のはたらき（説明文） ——

足利市立御厨小学校 吉 永 容 子

1 はじめに

昭和53年度から、本校では新教育課程の研究のため、教科・道徳・特活・自由裁量の4つのブロックに分かれて、研究に取り組んできた。その中の教科に、国語科が54年度から取り上げられ、国語ブロックが編成された。国語ブロックは、新学習指導要領の方針をふまえて、主題を『「学び方」の指導を通して「自ら学ぶ子ども」の指導のあり方』とし、副主題を「文章の叙述に即して内容を読み取る能力を高める指導」と設定した。説明文と物語文の2つの文種にしばって、研究を進めてきた。私は説明文の研究グループのメンバーとなり、国語の指導について学ぶ機会を得た。

私の今までの指導は、教師の発問により授業を進めてきた。児童は発問を受けて、学習活動を展開してきた。これでは児童は受け身であり、学習意欲もわからない。そこで、学習の主体者は児童であるという原則に立ち、教師中心の授業から児童が自ら学ぶ取る学習へと、質的転換をはからなければならないと考え、学習問題作りをする指導を試みた。

ここに報告するのは、国語ブロックの一員として「見通しを立てる学習課程」において、自ら学ぶ子どもの出発点となる学習問題作りをしたときの記録をまとめたものである。

2 「見通しを立てる学習過程」に関する基本的な考え方

国語ブロックでは「学び方」を「文章の読み方の順序を理解させること」と考えた。そして、文章の読み方の順序は学習課程と名付け、3回もの改訂を経て、「見通しを立てる学習」「調べる・確かめる学習」「練習学習」「ひろげる学習」「評価」の5段階を設けた。さらに、「見通しを立てる学習」には、次のような学習活動を取り入れた。

| 過程 | 学 習 活 動 |
|---------------|-----------------------------------|
| 見通しを立てる学習 | ひとり で調べる |
| | 1.自分の力で全文を読み通す。 |
| | 2.わからない漢字や語句を調べる。 |
| | 3.文章の意味のまとめりや場面をつかむ。 |
| | 4.第一次感想を書く。 (説明文では第一次の読み取りを書く) |
| | を学習 立てる 計画 |
| | 5.主題や要旨を予想する。 |
| 6.読みのめあてを立てる。 | |
| 7.学習問題をつくる。 | |

・1～4の「ひとりで調べる」段階は、自力で文章に体当たりさせ、わからないことをはっきりさせるために取り入れた。

・6の「読みのめあて」とは「単元の目標」のことで、児童にもわかることばで示し、次の3つの観点から設定することにした。

①文章にこめられている精神的価値を享受して心の豊かさを図る。

②文章の読み取り方である基礎的・基本的な理解能力を身につける

③文字力、語い力、文法力などの基礎的な言語能力を身につける。

- 7の「学習問題」は読みのめあての具体的なもので、文章を解明するにはどういう問題を追求すればよいかという問題を考えた。問題の洗い出しは文脈にそって取り出すとわかりやすく、説明文では意味のまとまりごとに、物語文では場面ごとに取り出し、要旨や主題につながる問題を重要視して、全体の問題にしていく方法をとった。

「心のはたらき」の指導にあたっては、文脈にそった問題作りができるようにするため、意味のまとまりごとに中心文に気づかせ、それを手がかりに学習問題を作る方法をとった。

3 実 践

1. 指 導 案

第5学年国語科学習指導案

昭和54年10月12日(金)第4校時

5年2組指導者 吉永容子

1. 題材名 説明文「心のはたらき」(光村 5年)

2. 目 標

- (1) 自分たちの思考をつかさどる心理作用の一端(記憶)及び生理機能の一部(ねむり)と、それらの関係を読み取ることによって、人間の認識を深め、さらに身近な事象を科学的にとらえようとする態度を育てる。
- (2) 段落の要点をまとめ、接続語を手がかりに、文章の組み立てをとらえ、要旨を確実に理解しながら、自分の感想や意見をまとめる。
そのために、次の事項について段階的に習得させる。
 - 形式段落ごとの要点を読み取ることができる。
 - 形式段落の関係を接続語を手がかりにとらえ、意味段落ごとに文章構成図を書き、さらに全体を通して、組み立てをとらえることができる。
 - 文章の要旨をまとめて、文章化することができる。
 - 心のはたらきという心理作用について問題を持ち、調べようすることができる。
- (3) (1), (2)の指導を通して、次の言語事項について指導する。
 - 漢字の読み書き (過去, 密接, 財産, 不規則, 減る, 児童, 知識, 精神, 興味, 混じる, 程度, 仮に, 測る, 比べる, 比率, 父母, 無事, 移, 上の空, たん生祝い, 良い常に)
 - 語句の意味を辞典を使って調べ、正しく理解し、文中で使うこと。(保ぞん, 密接, 機械的, 知識, 単語, 意よく, 経過, 単調, 入り混じる, もし~だとしたら, 仮に, 測る, しげき, 比率)
 - 文と文, 段落と段落との関係をとらえるために, 必要な接続語や指示語などに気づき, 文の中での動きがわかる。

接続語(このように, また, しかし, つまり, 反対に, 第一に, 第二に, 第三に, 第

四に、したがって、そして、次に、では、ところが、さらに、このことから、それでは)

指示語 (こう考えると、これに当たります、その例、これは、そのころ、このようなそれを、そのこと、それが、その、それによると、このことは、これらの方法、このような性質、これに対して)

- 複合語 … 入り混じる
- 意味の似たことば … 左右される＝えいきょうされる

3. 指導計画 (省略)

4. 本時の指導

(1) 題目 心のはたらき

- (2) 目標
- 要旨の確認、読みの状態、言語事項の3つの観点から読みのめあてを立てることができる。
 - 意味段落の内容から、3つの学習問題を学級全体の学習問題としてまとめることができる。

(3) 展開 (波線以下の資料・準備、評価の観点の欄は省略する)

| 過程 | 具体目標 | 学習活動 | 時間 | 指導上の留意点 |
|-----------|-------------------|--|--------------------|--|
| 学習のねらいを知る | ◦ 本時の学習のねらいをとらえる。 | 1. 本時の学習のねらいを知る。 | (形態) 5分 (一斉) | ◦ 読みのめあてを立てて、それを調べるために、学習問題を作ることを知らせる。 |
| 学習計画を立てる | ◦ 読みのめあてを設定すること。 | 2. 読みのめあてを3つの観点から立てる。 | 10分 (一斉) | ◦ 3つの観点 ①学習した要旨が正しいかどうか調べるための目標 ②文章の読み取り方の基本的技能をめざす目標 ③文字力、語句力、文法力などの言葉の力をめざす目標 ◦ 児童には手びきを手がかりにさせて目標を考えさせるが、教師の助言によりまとめていく。 |
| | ◦ 学習問題を設定すること。 | 3. 読みのめあての1を調べて確かめるために、学習問題を設定する。 ①学習問題の作り方を確認 ②「1.記おくについて」を音読 ③「1.記おくについて」 | 25分 (一斉) | ◦ 段落の文章にかかっていることを読み取ることができる文を手がかりに、問題を作っていけばよいことを確かめる。 ◦ この文章は2つのまとまりから構成されているのでまず、「1.記おくについて」の問題を意味段落ごとに作ることを知らせる。 ◦ 指名読み(3人) ◦ 3つの意味段落からできていることを確かめる。 |

| | | | | |
|------------------|---|--|-----------|---|
| | | の文章は、いくつ の意味段落か確認 ④学習問題発表 | | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 各自の作った問題を、意味段落の3つの大きな問題に集約していくようにして、全体の問題へまとめる。 |
| | ◦ 立てた計画を学習計画表に記入すること。 | 4. 学習計画に、読みのめあて、学習問題を記入する。 | (個別) | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 各自の作った問題の中で、全体の問題として取り上げられなかった場合には、学習計画表の「自分で進んで学習すること」の欄に書いて、自主学習させるようにする。 |
| ま と め る | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学習したことをとらえること。 ◦ 次時の学習のねらいをとらえること。 | <p>5. 本時のまとめをする</p> <p>6. 次時の学習と、準備学習の方法を知る。</p> | 5 (一斉) | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 本時は読みのめあて①を確かめるために、学習問題を作ったことをおさえる。 ◦ 次時は「2.ねむりについて」と全体の学習問題を作るので、各自問題を作成しておくことを知らせる |

2. 授業の記録(学習活動3の学習問題の作り方の確認と、意味段落の①の学習問題作りの場面)

(T … 教師, P … 児童)

| 教師の発言 | 児童の反応 |
|---|---|
| <p>T1 ジャ、いよいよ今日の勉強の2つめね。読みのめあての①を確かめられる学習問題を自分の問題からみんなの問題にしましょうね。読みのめあてから学習問題を作りましょうと言ったんだけど、学習問題とはどういうことで、どんなふうにして作ってあげばいいんだっけ。</p> <p>P1 ぼくは学習問題とは、本の中に書いてある問題なので、本の中以外で調べる…教科書以外で調べる…(まとまらなくて、答えが途切れる。)</p> <p>T2 本から調べられないと、学習問題とまらないのかな? そのことは前に何回かお話した中にありましたね。本にないことで調べたいと思ったことは、図鑑や図書室の本で調べればいから、</p> | <p>問題にしたいのはその中にあるようなことが調べられる、読み取れる問題でしょ。作り方はどうやったんだろうね。</p> <p>P2『1.読みのめあてがめざすものに結び付く問題で、その文章から読み取れる問題である。2.文章の部分と全体から考えてみる』です。みなさんいいですか。</p> <p>P (あまり反応がない。)</p> <p>T3あまりやったことがないので、手びきで確かめたいんです。もう一回はつきりしましょうね。学習問題ということで、これを見て下さい。いいですか。(「学習問題の作り方」と書いた手びきを指しながら) 説明文において学習問題はこんなふうにとめたんです。先生の指すところを目で読んで下さい。</p> <p>P 全員(学習問題のところ黙読)</p> <p>T4もう一つね。</p> |

P. 全員（作り方のところ黙読）

T5 こういうふうにしてできますね。それを実際に作るんだけど、「記おくについて」のところを今日はやってみます。どんな説明文だったか、誰か読んでくれる人いませんか。岡君。

P3 朗読（①～③段落）

P4 朗読（④～⑥段落）

P5 朗読（⑦～⑩段落）

T6 「記おくについて」は意味段落はいくつありましたか。

P6 3つです。

T7 大きくまとめて3つありました。意味段落一つずつ学習問題を合わせていきます。そこで発表するときは手がかりの文が形式段落の何番かを言って、文を言って、問題を言って下さい。じゃ①の意味段落でどんな問題ができましたか。リレーで聞いていきます。

P7 ①番は「また、今までに…」というところが手がかり文で、問題は「なぜ、国語の漢字などはよく覚えているか。」

という問題になりました。

P8 ぼくは①番で「このように…」という事で、問題は「どのように過去のことが保ぞんされているのか」です。

P9 ①番で「過去に…」問題は「過去に経験したことが心の中に保ぞんされなかったらどうだろうか」です。

T8 意味段落の①にはそれしか手がかり文はなかったかな。

P10 ①番で「このように…」問題は「どうして記おくは私たちと密接な関係があるか」です。

T9 湯沢君のは問題と手がかり文がずれなかった？

P11 ぼくは形式段落の②番で「記おくは…」というのが手がかり文で、問題は「記おくは私たちとどのような関係があるか」です。

T10 青山君と同じ手がかり文が見付かった人、手をあげて下さい。

P （挙手）

以下、問題作りが続いていく。

4 まとめ(反省と今後の課題)

読みのめあてや学習問題を児童から引き出すことに苦心した授業であった。しかし、学習後、90%の児童が問題作りがわかってきたと反応したので、下位児にも問題が作れるようになったものと思われる。今後は、一人一人の児童が、読みのめあてに結び付いて、主題や要旨に迫るための質の高い、中心的な問題作りができるように指導していくことが大切である。また、学習問題をみんなで作るという学習方法について「おもしろい」「楽しい」という興味を示している。これは単に新しい学習方法に対する興味や関心にすぎないかもしれないが、自ら学ぼうとする子どもへの第一歩が踏み出されたのである。そして、自ら学んだ学習の充実感、成功感が味わえるように研究を深めていきたいと思う。

5 おわりに

この実践を試みたことにより、今までより学習に意欲的に取り組む児童がふえてきた。これは、児童

を主体にした学習過程を取り入れた効果の表れだと思われる。しかも、その学習過程を教師側だけがとらえているのではなく、児童自らがとらえるように「学び方」の指導を国語ブロックで研究した成果でもある。「自ら学ぶ子ども」にするためには、子どもの指導方法を「自ら学ぶ教師」とならなければと改めて考えさせられた。

なお、これは私ひとりの研究でなく、国語ブロックの共同研究の一端であることを、付け加えておきたい。

<評>

御厨小学校は新教育課程の研究として、市教委研究学校の指定を受け、その研究の一かんとして国語科における学び方学習を取り入れ、それを児童にどう身につけさせたらよいかの実践研究を試みたものである。

中でも、この「見通しを立てる学習課程」は、学年にもよるが、学習の手引きにより、その手順をわからせ、学習の目標に沿って学習問題を設定するわけである。この学習問題は、学習目標の具体的な姿であって、どのような問題を追求し、そのためにどのような読みの技能を身につけ、また、その基礎としてどのような語句や文法等を学ばねばならないかを取りあげたものである。

児童は、このような学習方法をくり返すうちに、学習問題の作り方がわかり、更に、これは話し合いの場に持ち出されることにより、質の高い、練り上げられた学習問題へと発展するわけである。

このような学習が児童サイドに立った学習を可能にし、まさに自ら考え正しく判断する児童の育成につながるのである